

令和2年度

第1回 豊田市上下水道事業審議会

(概要版)

令和2年6月30日

---

## 令和2年度 第1回豊田市上下水道事業審議会 会議録（概要版）

---

【日時】 令和2年6月30日（火） 午前10時00分～11時50分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

- 【次第】
- 1 諮問書伝達
  - 2 市長あいさつ
  - 3 審議会委員及び事務局紹介
  - 4 会長あいさつ
  - 5 会議録、資料について説明
  - 6 議事
    - (1) 諮問内容について
    - (2) 令和元年度水道事業会計決算について【報告】
    - (3) 令和元年度水道水源保全事業特別会計決算について【報告】
    - (4) 令和元年度下水道事業会計決算について【報告】
    - (5) 豊田市の下水道事業について
      - I 下水道事業の概要について
      - II 下水道事業会計の仕組みについて
      - III 次期下水道使用料算定にかかる検討ポイントについて
  - 7 その他連絡事項等
  - 8 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員> 竹内 信仁（名古屋大学名誉教授） ※会長  
神頭 広好（愛知大学経営学部教授）  
松本 嘉孝（豊田工業高等専門学校准教授）  
藤嶋 伸一郎（豊田商工会議所：豊田信用金庫 副理事長）  
近藤 恭弘（豊田商工会議所第一工業部会部会長）  
杉本 敦子（豊田商工会議所女性会会長）  
吉賀 憲夫（豊田市区長会理事）  
鈴木 誠美（豊田森林組合代表理事組合長）  
石橋 博文（豊田加茂薬剤師会監事）  
野々山 輝美（あいち豊田農業協同組合女性部長）  
河合 久江（足助地域会議委員）  
鈴木 弘美（下山地域会議委員）

古橋 久三（稲武地域会議副会長）  
城金 茂樹（公募委員）  
青木 厚子（公募委員）  
＜事務局＞ 前田 雄治（豊田市事業管理者）  
杉本 尚久（上下水道局局長）  
成瀬 光明（上下水道局副局長）  
下川 涼太郎（上下水道局総務課長）  
澤田 亜紀（上下水道局経営管理課長）  
岡田 政彦（上下水道局企画課長）  
岡部 年朗（上下水道局料金課長）  
澤田 善之（上下水道局水道整備課長）  
新實 三矢（上下水道局水道維持課長）  
岩田 裕二（上下水道局上水運用センター所長）  
堀江 莊平（上下水道局下水道施設課長）  
竹村 浩一（上下水道局下水道建設課長）  
畑田 吉彦（上下水道局経営管理課副課長）  
八木 衣絵（上下水道局経営管理課担当長）  
播磨 有希子（上下水道局経営管理課担当長）  
岡野 久（上下水道局経営管理課主査）  
西口 隆洋（上下水道局経営管理課主査）

【欠席者】 ＜委 員＞ 中山 恵子（中京大学経済学部教授） ※副会長  
伴 健太郎（豊田市小中学校長会）

【傍聴者】 なし

## 【議事等の摘要】

### 1 諮問書伝達

- ・市長より竹内会長へ諮問書の伝達

### 2 市長あいさつ

- ・本日は大変お忙しい中、令和2年度第1回豊田市上下水道事業審議会に御出席いただきありがとうございました。
- ・御案内のとおり、水道料金、下水道使用料の見直しについて、4年に1度、見直しをしております。今年度が下水道使用料の見直しということで、委員の皆様には大変お世話になります。よろしく願いいたします。
- ・豊田市では、今まで市民の皆さん、あるいは事業者の皆さんの新型コロナから受けたそのダメージ対策として、70億円弱の市費を投入しています。一部、県の費用も入っていますが、特例給付金1人10万円が約430億円ですので、合計額は500億円ぐらいになります。加えて持続化給付金は別の話になっていますので、相当な金額がこの数か月の間にこの豊田市の市民の皆さんあるいは事業者の皆さんの手に届くというような状況でございます。
- ・また、水道料金の基本料金は4か月間、無料とさせていただいています。委員の皆さん御承知のとおり、水道事業そのものが、相当経営が厳しい状況にありますので、できればやりたくありませんでした。そういう中で4か月間の基本料金は、金額にして8億円ですが、水道事業の中では賄えませんので、一般会計からの補助金という形で、今回の補正で対応させていただいている状況です。
- ・それと基本料金だけが無料となりますが、かなりの市民の皆さんは、水道料金全部が無料になると思ってみえるので、蓋をあけたら一体これは何だという御意見は恐らくかなり届くだろうということも懸念され、いろんなことを考えると、水道料金はできれば避けたいと思ったのですが、今回、他の自治体がやっていて何で豊田市がやらないんだという、これは逆に言えば豊田市がやっているのになぜうちはやらないんだと他の自治体にも多分迷惑をかけていることがあると思いますが、そういう中でのそれぞれの自治体の判断ですので、非常に判断が難しいということを今回強く感じております。
- ・今回の下水道使用料の見直しにつきましては、こういう経済情勢ですので、判断が難しいところもあるかと思いますが、是非、忌憚のない御意見をいただく中で取りまとめをいただきたいと思います。
- ・新型コロナで厄介な時期での審議会の開催でまことに申し訳ありませんが、何とぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

### 3 審議会委員紹介及び事務局職員紹介

- ・審議会名簿により、委員を紹介
- ・事務局職員は、配席図と上下水道局の組織図で紹介に代える。

#### 4 会長あいさつ

- ・ただいま、市長より適正な下水道使用料のあり方についての諮問をいただきました。当該委員会の役割としては、上下水道事業に関する必要な調査及び審議をすることになっております。その中でも4年に一度見直しが行われる水道料金及び下水道使用料のあり方については、委員の皆様から多角的に審議いただくことが重要であります。
- ・今年度は、今回を含めて4回の審議が予定されておりますので、皆さんの活発な御発言をいただきたいと思います。円滑な議事進行に努めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### 5 会議録、資料について説明

- ・会議録は、要旨をまとめたものを豊田市ホームページで公開する。会議録には発言者も明記させていただく。
- ・配布資料の確認

#### 6 議事

##### (1) 諮問内容について

○経営管理課澤田課長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○城金委員

- ・報告3の資料、下水道事業会計決算の事業概要のところで使用料単価は元年度では121円24銭、これに対して汚水処理原価は175円39銭とあるがこの差額が一般会計からの繰り入れと思っているが、それで良いか。

○八木担当長

- ・報告3のときに説明をする予定であったが、その差額を一般会計から負担金、補助金で補填しているという形で間違いない。

##### (2) 令和元年度水道事業会計決算について

○経営管理課播磨担当長

- ・資料に基づいて説明

##### (3) 令和元年度水道水源保全事業特別会計決算について【報告】

○(上下水)総務課下川課長

- ・資料に基づいて説明

##### (4) 令和元年度下水道事業会計決算について

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

○松本委員

- ・報告3の決算状況の収益的収支のところ、費用の污水管渠費、污水ポンプ場費、汚水処理場費がストックマネジメント計画によって、かなり減額されたという報告だったと思うが、これは今後も含めて減額されていき、かなり有効的にストックマネジメント計画が働いていると考えて良いか。

○八木担当長

- ・令和元年がストックマネジメント計画の初年度であったため、今までの修繕計画の見直し期間となったため減額となった。来年度以降は少しずつ増えていく予定である。
- ・特に管路については点検調査により悪いところも見つかってきており、修繕をしていく必要が出てきている。
- ・このため、令和元年度のレベルで行くのは難しく、令和3年度以降は点検調査の結果で、修繕費が増えてくると予測している。

○古橋委員

- ・報告2のところ、この決算とは関係ないが水道水源の保全という意味で、豊田市外にある牧場からのし尿の流入が長年続いている。これは県の事業で牧場誘致して、入られた方達のし尿処理施設が十分機能してなくて大雨のたびに流域の河川に流出している。
- ・私どもの稲武地区の上水道に関しては、問題のないところから取水しているが、矢作川にまともにこれが流れ込んでいるという実態が20年近く続いているが、一向に対策されていないという現実があり、非常に危惧される。

○成瀬副局長

- ・牧場のし尿の放流の水質基準はBODの数字が高かったところがあったと思う。下水道事業ではなく、環境部で対象になるところもあると思うので、どういう対策をしているか確認しておく。

○城金委員

- ・豊田市と同規模の中核都市を含めて、40万人前後の都市と比べ一般の方が負担する下水道使用料は、豊田市は高いのか、安いのか。

○八木担当長

- ・20万人以上の中核市の中で比較すると豊田市は安い方になる。ただ、同規模ではないが県内で比較すると、中間ぐらいの使用料である。

(4) 豊田市の下水道事業について

I 下水道事業の概要について

○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

<質疑応答>

特になし

## Ⅱ 下水道事業会計の仕組みについて

### Ⅲ 次期下水道使用料算定にかかる検討ポイントについて

#### ○経営管理課八木担当長

- ・資料に基づいて説明

#### <質疑応答>

#### ○神頭委員

- ・経費回収率が一つの指標に見えるが、これは何か基準があって、ある程度ここまで達成すればいいとか、あるいはほかの都市と比較するとどうなのか伺う。

#### ○八木担当長

- ・経費回収率は、100パーセントを超えるのが理想的である。ただ、市町によって状況が全く違う。
- ・大阪にあるようなコンパクトな市で、少しの工事で大きな収入が得られる市もあるが、豊田市は市域が広くて、人口密集地が分散しているので、その分管路を長く延ばさなければいけないということがある。
- ・100パーセントを超えることが目標であるが、これだけあればいいという基準はなく、それぞれの市町で、目標を決めて経営を進めているのが現状である。

#### ○神頭委員

- ・特環とは。

#### ○八木担当長

- ・特定環境保全公共下水道事業と言い、鞍ヶ池、足助、豊田西部の3地区がある。

#### ○松本委員

- ・矢作川の鵜の首の掘削工事が今年度から始まり水害対策を行っていくが、下水道として、雨水排除の観点から内水はん濫をいかに防除するかが大きなポイントになってきていると思っており、その役割が社会的にも大きな関心となっていると思うし、今、一般会計で公共雨水を賄っているのを抑制するのはどうかということもある。
- ・雨水排除について下水道使用料に反映するかわからないが、その観点を少し議論に入れてもいいと思っている。
- ・今日、事前の説明で雨水排除の部分も話があった。今後の10年先のことを考えると、そういった災害に強いまちづくりという視点は入れていただきたいと思う。

#### ○八木担当長

- ・雨水事業については、話の中でもしてきたように、使用料の対象経費になることはなく、全てが一般会計の負担金で賄うものになる。
- ・一般会計の負担の抑制という話をしたが、それは汚水事業のことで、本来使用料で賄うところを、個人が負担するのか、市が負担するのかでというところで一般会計の負担金の抑制という話をした。
- ・雨については、市としても、重点的に取り組んでいかなければいけないことだと認識しているので、財政部局や企画部局と話し合い、調整しながら進めていくことになると思う。

○松本委員

- ・わかりました。今後は下水道使用料の対象経費である、汚水にクローズアップして話をするという理解で良いか。
- ・今日は雨水の話もあったが、今後、下水道使用料で議論するときはあくまでこの汚水処理について議論を進めるというそういう考え方か。

○八木担当長

- ・今後、下水道使用料の審議を進めていくので中心は汚水事業の話になる。

○竹内会長

- ・どこの上下水道局でも、公費負担が大きな議論になる。財政が苦しくなると、そこを削ろうという話にどこもなって、どの会議でもそこが問題になる。その点、今、日本の景気がどうなるかわからないが、悪くなると豊田市もなかなか厳しいと思う。補助なのでそのあたりをしっかりとこれから議論していったらどうかと思う。

7 その他連絡事項等

○経営管理課畑田副課長

- ・今年度の審議会開催予定について説明

8 事業管理者あいさつ

- ・今日は、御審議ありがとうございました。初回ということで、説明が長く、聞かれる一方だったと思いますが、今後、御議論をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。
- ・コロナ禍の状況の中で、皆様方の事業や活動、生活、大変な状況ではあろうかと御推察申し上げます。
- ・また、多くの市民の方がそういった影響を抱えておられるところですが、水道事業については、当たり前のように水を監視して、送るということ、それから下水を処理して、雨水のポンプ場などを動かすことが繰り返します。
- ・当たり前をやっていたのですが、このコロナに万が一かかったら職員を14日間留めておかななくてはならないという経験がなく、この数か月ちょっとピリピリして活動していますが、局内の対策本部を立ち上げながら、万全を期して取り組んでいこうと考えています。
- ・それから先ほど委員から御質問があった雨水のことですが、今日、説明の中で雨水対策について触れさせていただきましたが、雨水対策については下水が分担する部分と、それ以外の部分があって、今後話が出るかと思いますが、下水道としては、内水対策としてポンプ場で排水するということを申し上げました。それ以外にも、47災害のときには、枝下用水の水があふれて、中心市街地が水浸しになるということが起こりました。
- ・それから平成12年の東海豪雨のときには、矢作川の水が増えて、左岸側のほうに越水したということがございました。



- ・ 47 災害対策については、これまでも取り組まれてきているところですが、昨年度から枝下用水が耐震化事業を始めております。
- ・ それから内水については、一級河川安永川を拡張いたしました。トンネルを掘りまして、中の水を捌けるようにしています。
- ・ 東海豪雨に関しては、国土交通省が、左岸側の堤防の強化をされました。今後、先ほどお話がありました但馬の首の狭窄部の開削に取り組んでいこうとしているところです。
- ・ 下水だけではなくトータルに雨水対策に取り組んでおりますので、今後議論なったときに、また御紹介させていただきます。
- ・ 上下水道に関しては、先ほど来説明させていただいておりますように、過去整備した膨大な資産が老朽化するという、過去のを今後どうするかということ、それから将来に向けては人口減少があったり、水道使用量が減るというような課題もある中で、ストックマネジメントと言ったハード部分と、財務体質だとか組織の強化だとかいったような、ソフト部分を合わせてアセットマネジメントの取組として、今年度から着手しているところでございます。
- ・ 今後そのようなことも背景にしながら御議論させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。今日は本当にありがとうございました。

午前 11 時 50 分終了